

3 研究の成果

(1) 柱1「学びのある製作学習にするための手だて」に関わって

- ① 各校の実践紹介から、生徒の実態を考えた題材の選定し、つけたい力を明確にする。
- ② 生徒達の製作に対する高い意欲を学びにつなげるための実践
 - ア) 相森中学校 (生物育成) スプラウトの実践
 - イ) 小布施中学校 (生物育成) スプラウト題材の教材化とつけたい力
 - ウ) 東 中学校 (食生活) 魚の三枚おろしの実践
- ③ 生徒が問題解決的な学習を行うための工夫
 - ア) 学習に見通しを持たせるための製図学習。(昨年度郡研 小布施中学校の実践)
 - ・生徒個々の体験や技能を高めることで集団(グループ)学習の力をつける。
 - イ) 仁礼小学校(教育課程)のミシン製作場面の実践より
 - ・自分の学びが見え、課題から評価につながるような振り返りの場面工夫。
 - ・生活をよりよくする実践的な態度を育むために
 - a) 自分の学びの後が確認できるような、振り返りの場면을工夫する。
 - b) 自己評価あるいは相互評価の観点を明確にする。

(2) 柱2「課題を明確にすることで、具体的な評価につなげる指導のあり方」について

① 常盤中学校の授業から

安易に製作を一人一人に進めさせていくのではなく、共通で見る資料を与えるなど、教師が生徒達の製作や学習を意図してコントロールしていた。これにより、生徒同士が必要感を持って関わりを持っていく姿や、生徒個々の進捗差をなくし、共通の目的意識を持って取り組む姿が見られた。授業準備の段階で、教師側が仕組んでおくさまざまな手だてから「確かな学び」につながる製作学習のあり方を示唆していただいた。

授業後の研究会では、常盤中学校の生徒達のハンダづけの確実な技能の定着の姿や、共通の学習目標を持った生徒たちの関わり合いの姿から意見が出された。

② 自ら拓く力につながる「関心・意欲」の評価について

- ・学んだことに関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身につけているかを評価することが本来の関心・意欲の目標である。そのために、表面的な関心・意欲の姿にとらわれない、適切な「評価」のあり方を考える。

例) ×「服装を整え、まじめに製作している」→○製作に適した服装を考えているか

○自分なりの目標にそった製作ができていますか

4 来年度への課題

本年度は、常盤中学校安田貢教諭の自作題材による授業を公開していただくことができました。教材の最適化ということ意識し、確かな学びに結びつくための製作学習のあり方を研究授業を通して確認していくことができました。単なる製作体験におわらない「学び」をつくるためには、意図的に生徒の活動をコントロールしていくことで、授業の課題をはっきりさせ、生徒達の明確な目的意識につながっていくことが大切な手だてであることが確認されました。

しかし、実際の授業では、授業準備に当てる時間は限られており、各校一人で教科を担当しているという本教科の実状もあります。各校の連携を取り情報交換の場となり、よりよい実践に向けての手助けとなるような郡研究授業、そして委員会活動となるように進めていきたいと考えます。